

(環境) 本宿小学校 4年

## 環境のために自分ができることを考えよう！

9月～11月(総合的な学習の時間12時間・外国語活動5時間)

### 1. はじめに

近年、地球温暖化や資源の枯渇など様々な環境問題が起こっており、エコという言葉を目にすることが多い。これからの社会を担っていく子供たちにとって、環境のために自分たちができることを考えるということはとても重要なことである。今の生活を振り返りながら、少しでも自分たちのできることはないか考え、発表し合うことで、様々な意見の共有を図り、実生活につなげていきたいと考えた。本校では英語活動の研究で、他教科との関連の中で英語を活用することにも取り組んでいる。そこで、環境問題が国際的な問題であることから、発表の場を英語活動の時間に設けて、エコへの意識をさらに高めさせたいと考え、本実践を行うことにした。

### 2. 実践

#### (1) どのようなエコがあるのか知る(総合的な学習の時間)

地球では様々な環境問題が起きていることを伝え、CMや店のチラシなどで「エコ」という言葉を目にすることについて想起させた。そして、どのようなことが自分たちにできるのかを考えさせた。児童からは「買い物の時にエコバックを持っていく」「水を使うときは出しっぱなしにしない」「電気をつけっぱなしにしない」という意見が出てきた。しかし、それらを実際にやっているか問い返すと、「やっていない」という児童がほとんどであった。自分たちにできそうなことがあることは分かっているが、思っているだけで実行できていないことに気付くことができた。身近なところでエコという言葉が使われていることを知ることで、自分たちにも関わりが深いことを意識付け、環境問題について興味をもたせることができた。

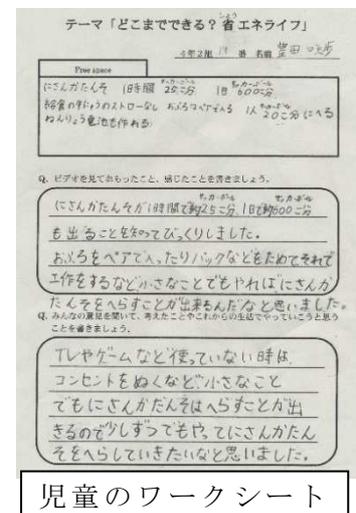
次に、下記のような動画を視聴させた。

- NHK デジタル教材〈OK ネットより〉 番組「ど～する？地球のあした」
- ①「どこまでできる？省エネライフ」 ②「エコの味方！環境カウンセラー」
- ③「これからの地球のくらし」 ④「ホントにお得？リサイクル」
- ②「エコの味方！環境カウンセラー」視聴より

動画を見ることで川や海にたくさんのごみが捨てられているという事実には驚く児童もおり、さらに川に捨てたものが海まで流れてしまうということやそのごみを食べ物と間違えて食べてしまい死んでしまう鳥や魚の存在に気付くことができた。自分たちはごみをポイ捨てするということはしないが、同じ人間がごみを捨て生き物の命を奪っていることに悲しみを感じる児童がいた。そして「自分は絶対にしないようにしたい」「川や海のごみを拾おうと思う」という意見がたくさん出た。

- ④「ホントにお得？リサイクル」視聴より

子供たちは、自分たちが何気なく捨てているペットボトルのラベルをはがしたり、キ



ャップを取ったりすることを手作業で行っている人がいることに気付き、「大変そう」「知らなかった」「これからは、ラベルをはがしたり、キャップをはずしたりしてからペットボトルを捨てたい」という思いを書く児童がたくさんいた。

## (2) 自分のできることを考えカードにしよう (総合的な学習の時間)

動画を視聴することにより、子供たちは、様々な環境問題に気付こうとする気持ちが高まっていった。自分たちにできることを考えてきた。今まで書いてきたワークシートを振り返り、その中から実際に生活の中でやっていけることを2つ選び、絵に表わす時間を設けた。絵に描かせることで自分の意見を再確認し、意識できるようになると考えた。



児童の描いたカード

「川をきれいにする」「分別をする」「食べ残しをしない」

「空き箱を捨てずに小物入れにする」「掃除をするときにバケツに水をためて雑巾掛けをする」など様々な意見が出された。身近なことで「エコ」になることを実行していきたいと考える児童の姿が伺えた。生活の中で、ほんの少し心掛けて実行すればそれがエコにつながり、環境を守ることになるということに気付くことができた。

## (3) 自分の意見を発表しよう (英語活動)

環境問題について考えていく中で、「リサイクル」や“スイッチオフ”という英語句がキーワードになると気付いた。そこで、英語活動と関連させ、国際的な問題という意識をもたせ、重要なキーワードを英語句で考え、唱えたり表示したりすることで、よりキーワードを意識させるのに有効だと考える。そして、英語活動「わたしたちは、地球を守るために何



発表会後の黒板

ができるか？」の時間に、「turn off」「recycle」「save」「look after」の動詞や熟語を学習させた。そしてこれらの語句を使い、自分たちができることについて、児童一人一人と話しながらそれを英語の文に置き換えていった。児童は「I can ~.」という表現を知っていたので、それらを組み合わせる表現できるようにした。覚えることに戸惑う児童もいたが、自発的に休み時間を利用して児童同士で練習をしている姿をよく見かけた。ただ、英語で言えるようになることだけが目的ではないので、教師自身も教室の電気やテレビを消すときに「turn off the lights.」「turn off the TV.」と英語で言うことで、行動と結びつけるようにした。

発表会では、友達の意見を聞くことで自分では思いつかなかったことも知ることができ、意見の共有をすることができた。

## 3. おわりに

総合的な学習の時間での環境についての学習が終わった後も、手を洗うときやうがいをするとき「turn off the taps.」と言いながら蛇口を締めている姿を目にする。今回の学習を通して自分の生活の中にある無駄や環境を守るためにできることをもう一度考え、自分の行動が地球を救う小さな一歩であることに気付き、また英語で発話することで国際的な問題であるという意識をもってくれるよう願っている。